

令和4年度

事業報告書

(自)令和4年4月 1日  
(至)令和5年3月31日

社会福祉法人 丹原福社会

(目次)

法 人 . . . . . P 1

特別養護老人ホーム . . . . . P 4

シ ョ ー ス テ イ . . . . . P 6

デイサービスセンター . . . . . P 7

居宅介護支援事業所 . . . . . P 9

配 食 セ ン タ ー . . . . . P 10

## 法 人

### 1. 法人の概要

【主たる事務所の所在地】 愛媛県西条市丹原町今井457番地1

【電話番号】 (0898)76-2111

【代表者氏名】 理事長 宮田 須

【法人認可年月日】 平成17年 7月22日

### 2. 法人の行う事業

事業の種類	名称	定員
第1種社会福祉事業	特別養護老人ホーム ル・ソレイユ	50名
第2種社会福祉事業	ショートステイ ル・ソレイユ	20名
	デイサービスセンター ル・ソレイユ	30名
	居宅介護支援事業所 ル・ソレイユ	
	在宅介護支援センター	
公益事業	配食サービス	

### 3. 役員等の状況

役職	氏名	就任年月日	役職	氏名	就任年月日
理事長	宮田 須	令和3年6月12日	評議員	今井 淳	令和3年6月12日
理事	今井 信夫	令和3年6月12日	〃	木村 正敏	令和3年6月12日
〃	近藤 恵津子	令和3年6月12日	〃	高橋 圭三	令和3年6月12日
〃	宮田 和代子	令和3年6月12日	〃	高橋 眞由美	令和3年6月12日
〃	村上 俊治	令和3年6月12日	〃	渡部 鶴男	令和3年6月12日
〃	山内 昇	令和3年6月12日	〃	村上 輝雄	令和3年6月12日
監事	安藤 功	令和3年6月12日	〃	柳瀬 朝子	令和3年6月12日
〃	井上 英俊	令和3年6月12日			

#### 4. 理事会・評議員会開催状況

##### (1) 理事会

開催年月日	議事内容
令和4年5月27日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 理事長の職務報告について</li><li>・ 令和3年度事業報告及び令和3年度計算関係書類並びに財産目録の承認について</li><li>・ デイサービス福祉車両契約について</li><li>・ 厨房機器リース契約について</li><li>・ 定時評議員会の召集について</li></ul>
令和5年3月28日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 理事長の職務報告について</li><li>・ 令和4年度補正予算の承認について</li><li>・ 令和5年度事業計画・予算の承認について</li></ul>

##### (2) 評議員会

開催年月日	議事内容
令和4年6月13日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 令和3年度事業報告及び令和3年度計算関係書類並びに財産目録の承認について</li></ul>

## 事業報告について

### (経理部門)

今期は昨年度以上に新型コロナウイルス感染の流行に伴う影響を受け運営状況は非常に悪かった。短期入所増床も予定通りには進まず、人件費とのバランスがうまくとれず減収に転じた。

### (機能訓練指導員)

ノーリフティングケアについては、各ユニットで取り組みに差が出ている。ご利用者様のアセスメントに基づき、ノーリフティングケアを浸透させる必要がある。

機能訓練に関しては、立案した計画書をもとに、現場スタッフが中心となり実施を進めている。また、LIFEへの反映も実施している。

### (管理栄養士)

介護・看護職員と密にご利用者様の体調や食事状況等の情報共有を行う事ができ、栄養ケア計画書に反映することができた。また、栄養アセスメントや家族様へご利用者様の食事の様子をより詳しく伝える為、日々のミールラウンドをしっかりと行う事ができた。

委託栄養士と非常食の定期的な見直しを行い、献立の検討を行えた。

### (生活相談員)

#### 特養

感染症の影響により入院や入居申し込み者の調査及び面会制限があり、数値目標稼働率99%が95.9%になり目標達成できなかった。

しかし、直接面会がほとんどできない中、家族様と連絡を取り合い近況報告や相談・コミュニケーションを取る事で信頼関係を築いた。

#### 短期

コロナ感染流行の影響によりご利用制限や体調不良の方が増えたため、稼働率が前年度より低下した。

ご家族様・ケアマネージャーへの報告・相談を徹底し、コロナの流行期でもご利用の不安を抱かれることのないよう対応できた。

### (ケアマネージャー)

入所時に利用者様の生活史を知る為に、アンケートを記入していただいている。その情報を元にケアプランを作成したことで、希望が反映されたプランとなった。

# 特 別 養 護 老 人 ホ ー ム ル ・ ソ レ イ ュ

2. 入所者等の状況 (令和 5 年3月31日現在)

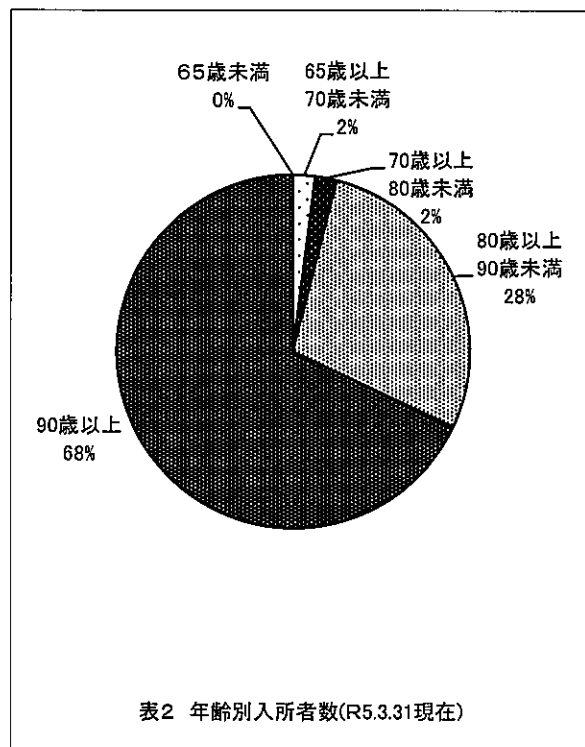
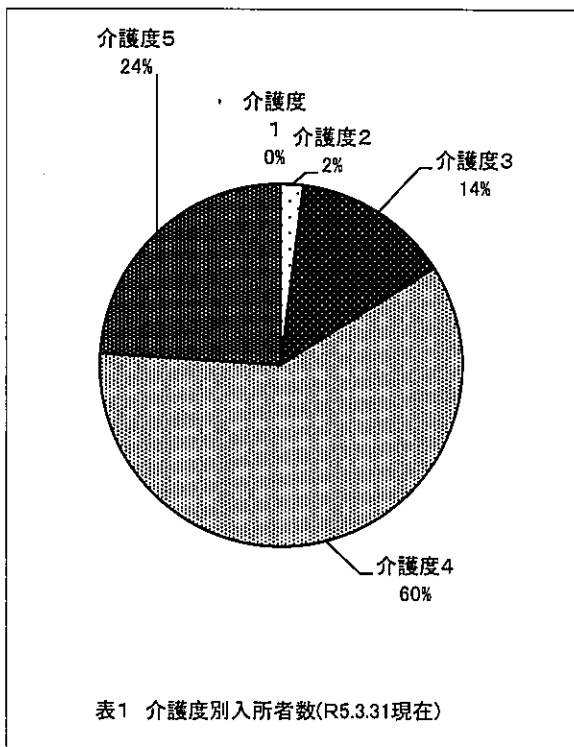
定員50名

(2)介護度別入所者数 (表2)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均要介護度
男	0 人	1 人	1 人	10 人	2 人	14 人	4.06 ※(R3年度4.28)
女	0 人	0 人	6 人	20 人	10 人	36 人	
計	0 人	1 人	7 人	30 人	12 人	50 人	

(2)年齢別入所者数 (表2)

65歳未満	65歳以上 70歳未満	70歳以上 80歳未満	80歳以上 90歳未満	90歳以上	平均年齢
0 人	1 人	1 人	14 人	34 人	91 歳 ※(R3年度91.2)



## 2. 入退所状況(定員50名)

R 4 年 度	延入所者数	入 所 者 数	稼 働 率
		退 所 者 数	
R 4 年 4 月	1,401 人	$\frac{0}{1}$ 人	93.4 %
R 4 年 5 月	1,438 人	$\frac{3}{3}$ 人	92.8 %
R 4 年 6 月	1,461 人	$\frac{3}{1}$ 人	97.4 %
R 4 年 7 月	1,513 人	$\frac{1}{2}$ 人	97.6 %
R 4 年 8 月	1,471 人	$\frac{2}{2}$ 人	94.9 %
R 4 年 9 月	1,455 人	$\frac{2}{1}$ 人	97.0 %
R 4 年 10 月	1,527 人	$\frac{2}{2}$ 人	98.5 %
R 4 年 11 月	1,490 人	$\frac{1}{1}$ 人	99.3 %
R 4 年 12 月	1,483 人	$\frac{1}{4}$ 人	95.7 %
R 5 年 1 月	1,342 人	$\frac{4}{7}$ 人	86.6 %
R 5 年 2 月	1,378 人	$\frac{5}{1}$ 人	98.4 %
R 5 年 3 月	1,541 人	$\frac{2}{1}$ 人	99.4 %
平 均	1,458 人	$\frac{2.2}{2.2}$ 人	95.9 %

(退所の内訳)

看取り 22人  
長期入院 4人

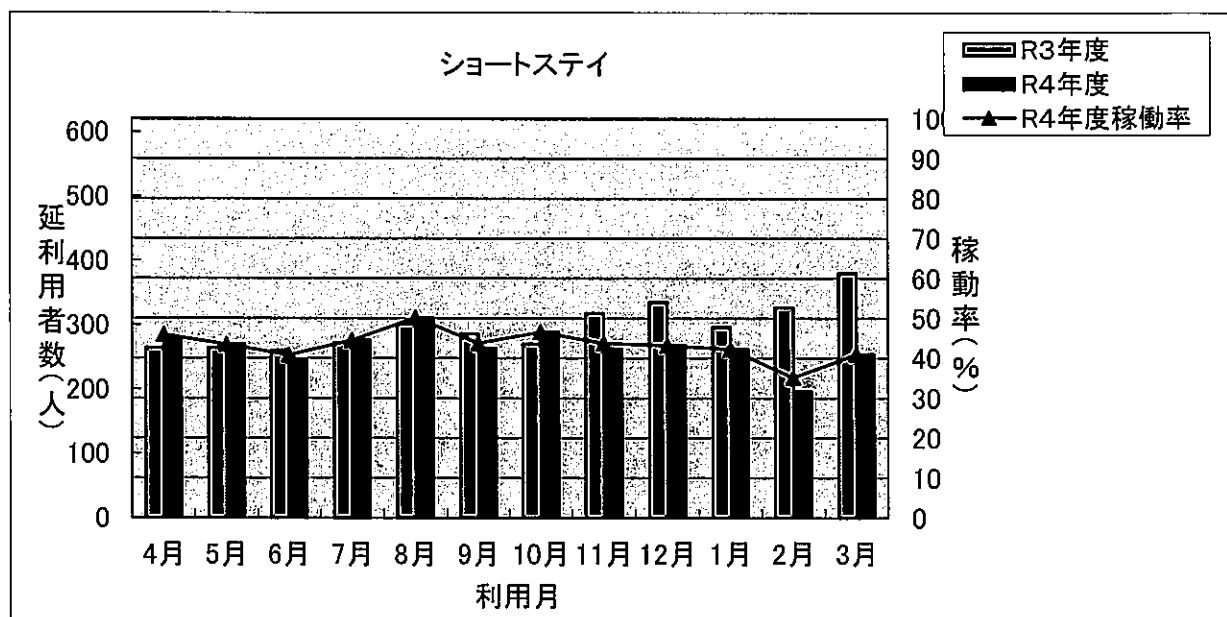
(転倒・転落事故の件数)

転倒・転落 19件  
表皮剥離・内出血・打撲 70件  
その他 6件

# 短期入所生活介護事業所 ル・ソレイユ

## 1. 利用状況

R 4 年 度	延利用者数	1日平均 利用者数	稼働率
R 4 年 4 月	276 人	9.2 人	46.0 %
R 4 年 5 月	270 人	8.7 人	43.5 %
R 4 年 6 月	245 人	8.2 人	40.8 %
R 4 年 7 月	276 人	8.9 人	44.5 %
R 4 年 8 月	311 人	10.0 人	50.2 %
R 4 年 9 月	263 人	8.8 人	43.8 %
R 4 年 10 月	289 人	9.3 人	46.6 %
R 4 年 11 月	263 人	8.8 人	43.8 %
R 4 年 12 月	268 人	8.6 人	43.2 %
R 5 年 1 月	262 人	8.5 人	42.3 %
R 5 年 2 月	197 人	7.0 人	35.2 %
R 5 年 3 月	254 人	8.0 人	41.0 %
平 均	264.5 人	8.7 人	43.4 %

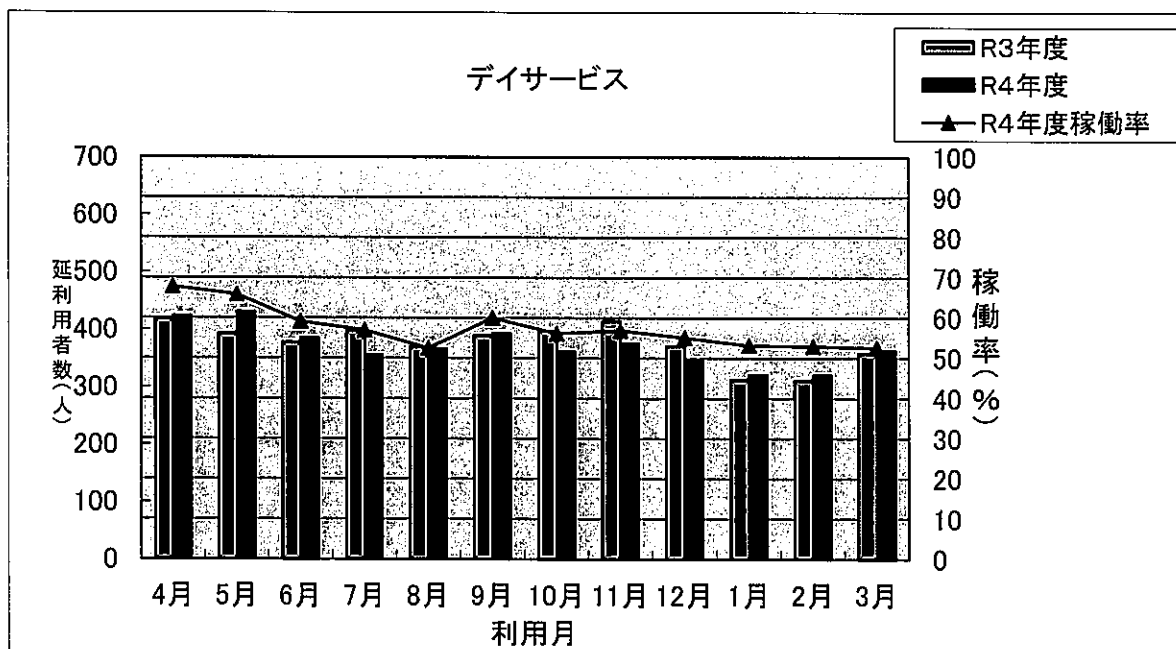




# デイサービスセンタール・ソレイユ

## 1. 利用状況

R 4 年 度	延利用者数	1日平均 利用者数	稼働率
R 4 年 4 月	423 人	20.1 人	67.8 %
R 4 年 5 月	430 人	19.5 人	65.8 %
R 4 年 6 月	385 人	17.5 人	59.1 %
R 4 年 7 月	355 人	16.9 人	57.0 %
R 4 年 8 月	366 人	15.9 人	52.5 %
R 4 年 9 月	393 人	17.8 人	60.0 %
R 4 年 10 月	362 人	17.2 人	56.2 %
R 4 年 11 月	375 人	17.0 人	56.9 %
R 4 年 12 月	346 人	16.5 人	55.1 %
R 5 年 1 月	321 人	16.1 人	53.2 %
R 5 年 2 月	320 人	16.0 人	53.0 %
R 5 年 3 月	363 人	15.8 人	52.6 %
平 均	369.9 人	17.2 人	57.4 %



令和4年度 特別養護老人ホーム・シヨートステイ・デイサービス 事業報告

事業所名	水分	活動	排泄	食事	稼働率及び維持・向上の取組
特養 ユニット1	飲み物の種類だけでなく、温かい物もお聞きし、要望に応えることができた。 ジュース等の液体摂取が困難な方には、トロミを付け調整又は、ゼリー状にし、無理なく、摂っていただいた。	午前中に、足浴やレクリエーションをしながら体を温めたり、関わりをもつことができた。コロナ感染防止のため長期間外出等できなかつたが3月には、利用者様が言から行き慣れている場所へ、お花見に行くことができた。	トイレで排泄していただける様に、個別に排泄のタイミングをみて声かけし、朝食後や排便の兆候がある方には、福祉用具を使用し、排泄しやすいう姿勢を整えることで排泄に繋げることができた。	飲み込みが困難になった時は、食事形態や量を変更し、食べられる量を少し上げていただいた。食事以外の時間にもお菓子類を提供し、食事量の維持に努めた。また、レクリエーション時に、口腔体操をし、スムーズに食事が摂れる様子の組み立て。	稼働率及び維持・向上の取組 相談員と調整し、退所から2週間以内の入所に繋げることができたため、目標稼働率95.0%に対し、98.2%であった。また、室温や湿度変動による体調不良を防止するため、各利用者様の部屋に温度・湿度計を置き体調管理に気を付けた。
特養 ユニット2	7月に水ケアの実施。水分摂取の重要性と影響を認識し、ご利用者様の好みの種類の、その時の気温に合わせて無理のない水分提供ができた。 夕方方には全ご利用者様の1日の水分量を計算し、必要水分量の把握を継続してきている。	ご利用者様の意志に添い、個々の居たい場所を過ごして頂くよう努めた。しかし、11月以降はスタッフ不足やコロナ感染対策が続き、定期的なレクリエーションやご利用者様との個々の関わりが減少し、活動量も減少した。	水分量を意識したり、食物繊維の活用により、3月末現在の水菓の下剤・涼腸の使用は3名から0名と変わっている。また、便秘の改善もみられている。新規入居者様も含めて、おむつを使用せず布パツ使用に移行できた。	ご利用者様の姿勢を整えたり、使用食器の検討・変更を行い、ご自身で食べる意欲に繋がる環境、声かけができた。現在7名が自立・2名が一部介助・1名が総合介護となっている。しかし、口腔体操や手・指の運動やレクリエーションは継続して行えなかつた。	ご利用者様の状態の変化に早めに気づき、相談員・ドクターに報告は随時できている。目標は99%だったが、7月から10月までの脳梗塞による長期入院と1月に3名の退所があり、目標を大きく下回る95.8%になった。
特養 ユニット3	ご利用者様の嗜好に合わせ、目標水分量を8割の方は達成できた。しかし、2割の方は1000mlを達成できない日もあった。定時の水分提供だけでなく、度々の提供、声かけをもつとすべさるべきだと思える。声かけ状態に合わせ、とろみの使用を行いその都度対応できた。	レクリエーションの提供はほとんどできず、時々行った風船ハレーや創作は活動量の多いご利用者様に限られてしまい、その他のご利用者様には足湯しかできなかった。次年度は担当を決め、取り組みに合ったフロアの環境づくりを取り組み、全体的にご利用者様に楽しんで頂く空間の提供を目指したい。	パットの排泄を減らすことはできなかつた。しかし、食物繊維やオリゴ糖の使用で自然な排便に近づけることはできた。また、排泄パットの把握やパットの種類を定期的に検討し直し、個々に合わせた誘導や定期的な交換ができるようになった。また、書式を変更したことで、排泄の有無を確認しやすくなり、情報共有もできるようになった。	食事形態だけでなく、食器の種類や自助具の検討等を同時に行い、個々に合わせた安全で安心な食事提供ができた。また、食事時の姿勢やボシヨニソング等、職員一人ひとりが気にかける都度振り返り直し等できている。今後そも継続して行っていきたい。	日々ご利用者様の体調管理や表情の様子を観察を行い、異変の早期発見に努めたことで、入院での退所はなかった。しかし、新卒のご利用者様の調査、受け入れをスムーズに行えなかつたこと、目標の98.5%には届かず、今年度は95%となってしまった。今後とも引き続き体調管理等に努め、調査・新規入所をスムーズに行なっていきたい。
特養 ユニット4	ご利用者様に合わせた目標水分量(1000~1300ml)摂取を9割の方は達成することが出来た。ご利用者様それぞれの好みを把握し、定期的な提供・声かけを継続して行なった。	個々のADL向上・維持に向けてレクリエーションの実施を努めた。週2~3回のボール投げ・風船ハレー・体操などの全体レクリエーション、毎日の散歩・足浴・園芸などの個別レクリエーションを継続して行なった。	個々の排泄パターンの把握・パットの見直しを行い、排泄一覧表を作成。オリゴ糖・繊維・ゼリーを活用し、個々に合わせた定時の誘導にてトイレでの排泄が行えている。	食事形態だけでなく、食器の種類や自助具の検討等を同時に行い、個々に合わせた安全で安心な食事提供ができた。また、食事時の姿勢やボシヨニソング等、職員一人ひとりが気にかける都度振り返り直し等できている。今後そも継続して行っていきたい。	目標稼働率は98.5%だったが、12月・1月のコロナ感染防止の隔離中、入院や新規ご利用者様の受け入れまでの空所期間が長期で重なるため、94.6%であった。日本の体調観察にしっかりと努力、職員間の情報共有、異変時の早期発見、相談員・ドクターへの報告に努めていく。
特養 4階	体調や飲み込みに合わせて無理なく目標の1000ml前後の水分補給をすることが出来た。 夕食前に水分摂取量を計算し夕食時に過不足分の調整を行った。	日中、パズルや塗り絵、等のレクリエーションは行えたと、歌体操、体操等体を動かさせてのレクリエーションは毎日行われてきた。	トイレでの排泄を目指し支援を行えたが、食前のトイレ介助は行っていないことが多かった。排泄に関しては、トイレ介助可能な利用者様はトイレでの排泄が出来る。	安心、安全で楽しく食事出来るように、除菌や感染防止に心掛け支援する事が出来た。来期は作り出し出来ない事が多く、来期はおやつ作りの機会を増やして行きたい。体調の変化等の情報共有は出来ているので、継続して行く。	ご利用者様の入院中コロナ禍での空所利用が出来なかつた為等目標には届かず96.4%だった。体調不良等の見逃しの無い様に、職員で情報共有し引き続き紹介助行していく。
シヨート	スタッフがご利用者様一人ひとりに好みを把握する事で、ご利用者様に無理なく水分摂取して頂く。しかし、本人様から「足りない」と言う要望もあり1日の水分量が少ないご利用者様も数名みられた。透折などで水分制限があるご利用者様に色んな味を楽しんで頂くから、摂取していただくことができた。	季節に応じて頂くような創作レクでは一人ひとりの身体機能に合わせた活動量が多くなる。七夕、運動会・盆分などの行事を行い皆様は見るの出来ないご利用者様の一行を見ることができ、季節感を味わった。コロナも少しずつ落ち着いてきている為、来期は外出しつづきの機会を増やし、ご利用者様の意欲・楽しみにつなげていきたい。	日中・夜間ともに、失禁・失便はゼロではないが職員がご利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握することで少しずつ減ってきている。新卒の職員も増えてきたため、日中・夜間のトイレ誘導について、全職員が排泄パターン・パット及びリハビリパットの理解を把握し、覚えていない為一貫化し統一できるように努める。	ご利用者様の状態に合わせて食事の提供を継続して頂く。また、個別の状況や身体状況に合わせた食器の変更、物品の使用等を行うことで、摂取量も安定して頂いている。また、コロナ禍でも安心して食事を摂るための換気や消毒を徹底し、テーブルにアルコール消毒液、ロケットスプレーを使用し、体調不良の方に、別居の対応を行う等、安心、安全な食事環境を提供して行く。	目標稼働率は50%に対し43.6%、6%減であった。コロナ感染防止による利用制限や7名の施設入所もあり、稼働率が低下した。新規のご利用者様は増えてきているが短期間利用のため急激な稼働率増加には止まっていた。クレームなどで利用には0件だった。
デイ	入浴後の飲み物の提供では、個々の好みに合わせて(温、冷、ぬるめ)で対応し、ほぼ全量摂取して頂いた。ご利用者様に四季に合わせた好みの飲み物を用意し、提供することを目標としていたが、取りかかるとかきやらかし、飲み物も冷たくなる。しかし、夏季はかきやらかし、冬季は生クリームやチョコ、ホットミルクの提供をし、季節感を感じながら、楽しんで目標の850mlを摂取して頂くことができた。	適切な訓練では、赤十字訓練や平行歩行、棒体操等、一日を通してほぼ全利用者様が実施し、身体機能の維持に努めることができた。実施記録を参考にしたり、個々の身体状態やご自身の環境などがある程度把握はできてきた。また、ADLの維持に努めた。コロナも少しずつ落ち着いてきている為、来期は外出しつづきの機会を増やし、ご利用者様の意欲・楽しみにつなげていきたい。	対象利用者様のトイレ誘導を依頼したにも関わらず、排泄パツに記入がうまくないことが多く、パットの把握がうまくないことが多かった。そのため、再度事前等や後継を依頼した。その後は職員同士の声かけ確認とチェック表をもとに定期的な職員研修を行うことができた。結果、対象利用者様のトイレでの排泄ができるようになり、清潔保持に努めることができた。	ご利用者様の状態に合わせて食事の提供を継続して頂く。また、個別の状況や身体状況に合わせた食器の変更、物品の使用等を行うことで、摂取量も安定して頂いている。また、コロナ禍でも安心して食事を摂るための換気や消毒を徹底し、テーブルにアルコール消毒液、ロケットスプレーを使用し、体調不良の方に、別居の対応を行う等、安心、安全な食事環境を提供して行く。	目標稼働率70%に達できて57.4%となった。新規の方々に体験利用を積極的に促し、実際に体験して頂くことで利用に繋がった。キャンセルには随時、追加利用を促したことが繋がらずキャンセルの方が多かった。コロナ感染や流行による欠席者、体調不良者も休まれる頻度も長期間に亘り当初に利用予定人数より下回る日も多くあった。新規利用者の方も多く、稼働率増加に努め、入所による利用終了の方も多い。今後利用報告ともに1階の取組み内容も積極的に伝え、調整に繋げていく。

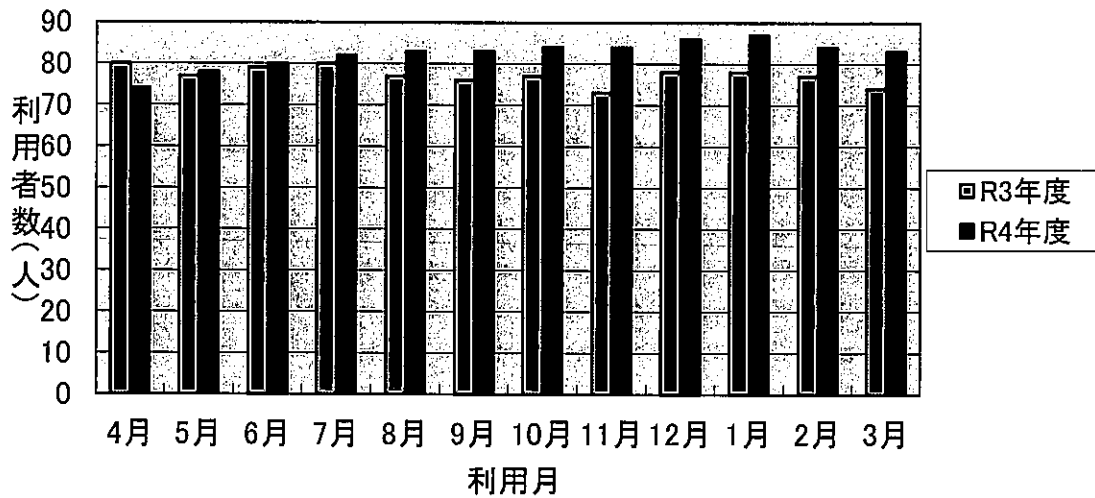
# 居 宅 介 護 支 援 事 業 所 ル ・ ソ レ イ ュ

## 1. 居宅介護支援利用者数(居宅介護支援費請求件表1)

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
令和4年度	74	78	80	82	83	83	84	84	86	87	84	83	988

表1 居宅介護支援利用者数



## 2. 要介護認定調査

契約先の市より委託を受け、当事業所の介護支援専門員が要介護認定調査を行った。

受託先・・・西条市 件数・・・82件

## 3. まとめ

・令和4年度の新規相談件数は56件(前年度31件)。(内訳:本人から3件、家族から18件、行政(市役所)から1件、地域包括支援センターから17件、病院から15件、老人保健施設から1件、他の居宅介護支援事業所から1件)。

新規相談で実際にサービス利用に繋がったケースは44件、住宅改修・特定福祉用具購入のみが2件、相談や高齢者サービスのみ利用で、介護サービスに繋がらなかったケースが10件となっている。

施設入所での終了は8件(特養・グループホーム・長期での老人保健施設入所)、死亡12件、入院でサービス中止や転居などで終了は9件。合計でサービス終了となったケースは29件だった。

前年度よりも月単位および年間延べ利用者数は増加、新規相談件数も増加している。丹原・東予・小松・西条(氷見地区など)の各圏域から相談はみられているが、地域包括支援センターからの担当依頼のケースが増加している。一方終了となった利用者数も微増しており、長期入院や死亡といったケースが前年度よりも増加傾向にあった。

・介護予防+総合事業については、年間延べ利用者数は396人(R3年度は346人)。

要介護認定の利用者の担当を優先しているが、更新により要支援認定に変わったケースや、担当する利用者の家族といったケースもあり、介護予防+総合事業の利用者も前年度よりも増加傾向にある。

# 配 食 サ ー ビ ス

## 1. 利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
配食数	401	374	445	336	340	346	353	340	342	324	327	366	4,294
1日平均	20	20	20	17	15	17	18	17	17	17	17	17	17.7

## 2. まとめ

西条市内に在住の方で、毎日の食事に支障のある方、お食事の調整が困難な方に、管理栄養士指導による栄養バランスを考慮した給食の提供を実施している。月平均358食程度の配達となっている。西条市食の自立支援事業を受けることができない高齢者の方に、自費での配達を実施している。

